

## 1月号 漢字ドリルの傍らで

学習会で漢字ドリルに取り組む子どもは多いと思います。そうなると隣で見守るスタッフとしては手持ち無沙汰になります。せっかくの学習機会ですので、うまく子どもと関わりを持ちたいですね。

まずは目標・学習シートの「今日の学習内容」を書いてもらう際に、どれくらいの分量があるか確認しましょう。1コマで終わるか、2コマ必要か。おおまかな時間配分を考えておきます。学習が始まつたら子どもの様子を見守ります。小学校4～6年生が学習に集中できる時間は20分から30分程度と言われています。集中力が落ちてきた頃合いをみて、声をかけてみましょう。続けたい様子であれば続けてもらい、飽きてきた様子であれば、漢字に関する以下のようなやり取りをしてみたらいかがでしょう。

1.練習した漢字の「へん」と「つくり」を確認する。そのうえで、同じ「へん」や「つくり」を持つ漢字を書き出してみる。10個書いてみると、スタッフと子どもが交互に書いてみるなど、ゲームっぽくやると意外に盛り上がります。

2.練習した漢字の画数を確認する。「しんにょう」を2画と勘違いしている子どもは結構います。他に「子」(3画)、「弓」(3画)は間違いやさないので、その場で聞いてみてもいいでしょう。

3.クイズ形式で、画数が一番多い漢字を書き出してもらう。教育漢字の範囲であれば、「競」「議」(小4)「護」(小5)が20画で最大です。ちなみに常用漢字まで広げると「鬱」が29画で最大だそうです。

4.（教科書を持っていれば）その漢字が教科書でどのような文脈で使われているか確認する。その漢字を含む文や段落を音読してもらうのもよいでしょう。

5.練習した漢字や熟語を使って短文をつくる。何か別な言葉を含めるなど、条件をつけると盛り上がることがあります。（「○んこドリル」人気ですよね。学習会で使用するのは憚られますが）

6.辞書をひいてみる。最近は学校でも紙の辞書をひく機会が減っているようです。会場に辞書があれば反意語や類義語、使い方などを確認してみてもよいかもしれません。

以上のやり取りを通じて、気分転換？をしたら後半に向けて再スタート。ひととおり終了したら小テスト（口頭でも、手書きでも）をしてアウトプットせるのも有効です。

他にもいろいろな手法があるかと思います。子どものために工夫してみることは、この仕事の醍醐味の一つですね。ぜひ皆さん流のアプローチを研究してみてください。